



平成20年度版【総力特集】

行政改革の 今を斬る――

川根本町の行革はどこまで進んでいるのだろうか



「今を見つめ直し、将来を創造する」。
行革とは、今、川根本町が一番力を注いでいる施策です。これまで当たり前として行ってきたあらゆる業務について「ムダな部分はないか」、「正しい方法で行っているか」、「改善できる部分はないか」、「一つにまとめられるものはないか」など、一度すべてに疑問符をつけて、徹底的に見直し改善を加えていく。それが行革です。今あるものをそれで良しとせず、地道な見直しを繰り返して積み重ねて、将来の川根本町が迷わず正しい方向を進んで

行政改革大綱・2年目の成果

いけるように。現在、全課をあげて総力的に取り組んでいます。

行革には「痛み」が伴います。補助金の打ち切りや、町営施設の運営形態の変更など、町民の皆さんにご理解をお願いすることも多々あると思われまます。

「行革」とは、夢物語を創造する魔法の施策ではありません。行政は地道な取り組みを、それこそ断腸の思いで行っています。すべては将来にわたって「川根本町」が生き残って

いくために。皆さんが安心してこの町で暮らしていけるように。

大阪府では橋下府知事が若いパワーで行革を推し進めています。プロジェクトチームを立ち上げ「聖域なきゼロ・ベース」という大胆な方針も打ち出しました。将来を生きる子どもたちが、健やかに安心して成長していけるように。少なくとも、府の財政的な面で不安を感じない暮らしが営めるように。時には涙をこぼしながら、必死で訴えかけています。

川根本町も、まだまだ見直し改めるべきことがたくさんあります。

この先、10年、20年、あるいは100年先に思いをはせたとき、私たち行政は皆さんに何を伝えることができるでしょうか。

「理想・希望・展望」…。そんな夢物語だけ語れるわけではありません。

「不安・課題・そして、現実」に目をそむけるわけにはいけません。

その「不安」な部分を、少しでも取り除き、一つでも多くの「希望」を語る事ができるように。そんな将来を想像しながら、川根本町は改革に取り組んでいきます。

これからもずっと、皆さんと手をつないで、この町で生きていきたいから。

今年度の総力特集をお届けします。

●聖域なきゼロ・ベース

大阪府改革プロジェクトチームが改革初年度の当初に掲げた方針。施策の重要度や緊急性に関係なく、無作為に削減案を抽出し、1,100億円という膨大な経費削減を狙った。ここまでやらなければ、危機に瀕する大阪府政は立て直せないという明確な意思表示でもあったが、公表後、各局から激しい反発が起こり、その後、病院や警察などの住民の暮らしに直接関わる分野については削減案を緩和すると橋下知事が表明。「聖域なき」は少し後退した。

平成20年度版総力特集

行政改革の今を斬る― contents

- 4…序章 行政改革の今を斬る～川根本町の行革はどこまで進んでいるのだろうか～
- 6…第1章 行革のキホン～ひと（町民）とまち（行政）みんなが主役のふるさとづくり実現のために～
- 10…コラムギョウカク 町民の皆さんが町行政に感じていること
- 11…第2章 行革2年目の成果～平成19年度の取り組み状況をご報告します～
- 16…コラムギョウカク 県内他市町における行革の取り組み状況
- 17…第3章 行革へのアドバイス～町行政改革推進委員会が示した13項目の提言～
- 22…コラムギョウカク 環境マネジメントシステム・エコアクション21が「行政改革」に与える効果
- 23…第4章 平成20年第1回行政改革推進委員会取材レポート
- 32…第5章 行革3年目の夏～平成20年度の取り組みが始まっています～
- 34…終章…行革のこれから
- 35…特集の終わりに